

5 給種苗の検収及養殖指導

(1) 検収より荷付まで

1958年1月31日16時箱詰め給種苗200箱をトラック積載し16時30分泊阜頭出発、19時屋敷地村役所到着。曇雨による被害防止と通風不良による温度の上昇を避けるため箱を雑し2~3箱電ねとし役所軒下に下した。泊出発時の気温17.5℃、屋敷地役所番箱内温度15.5℃、同村役所職員立会で200箱引揚ぐ。

2月1日予め準備してある養殖現場を荷馬車により運搬し側舟にバラ積みをした。2名は側舟の方向と推進の維持に当り、3名は荷付をなす。風上より側舟を流しつつ種苗はバラ蒔とし養殖場一帯に均一となるように荷付けた。荷付開始8時、終了12時、水温10時10分に15℃、比重は10時10分に1.01878で引潮水深2尺

(2) 種苗の状態

総量 200箱。 1箱当1.47貫付(平均12升)

1箱当1,740個付平均、1箱当死亡5.69% 歩留94.31%

1ヶ当平均殻長33.52mm、殻高23.78mm、殻幅18.45mm(100個平均)

(3) 指導

養殖場への立入禁止、空器の予防、単位面積に於ける成長度及歩留測定移動における方向、水深、傾度、底質、雨季の潮位。